

雑談

函館市医師会
平山医院

平山 繁樹

突然、北海道医師会から「会員のひろば」への原稿執筆の依頼がやってきて、「あら？なぜ私？」と思いつつ原稿を書いています。小学生の頃から国語が苦手で、中でも作文は苦手中の苦手でしたので、原稿依頼が来るとゾットしてしまいます。逆に話の方は、そう苦手ではないのです。原稿がある話は同じく苦手なのですが、フリーターキングは、その時の思いや感情、意見を多少の付度をしつつ話せば良いので、そう苦手意識はないのです。という話始めで、いかにもタイトル通り雑談を展開していこうと思います。

まず、「お前は誰じゃ？」てことから始めますが、函館市医師会で理事をさせてもらっています（これも多少の付度を含んだ言い回しです…）。もう、何年やっているかは覚えていませんが、10年以上はやっていると思います。理事会の席順は、ほぼ、ずっと末席であります。学生の中からサッカーとDJをしており、今もその名残か、多少、人と違っていたことをしていることがあります。一時期、周りに本気で「職業：DJ、趣味：サッカー、バイト：医者」と思っていた人たちがおりました。というか、診察室で子供が「この人何？ お医者さんじゃないよね？ ママ！」ママ「そんなこと言うんじゃないの！！ お医者さんよ」子供「え～、だって金髪だよ～！」という、それこそ付度を知らない無垢なお子さんの会話を耳にしたことがあります。しかし、あくまでも本職は、平成2年から、れっきとした医師であります（新聞なんかで見る自称医師ではありません）。大学病院時代の専門は血液内科です。連日、白血病や悪性リンパ腫等の血液悪性腫瘍の患者さんと共に、末梢血幹細胞移植や同種骨髄移植等の武器を用いて戦っておりました。趣味のサッカーは中学3年生から始め、それまでは、小学校3年生からラグビーをやっていました。当時の将来像は、ラグビーで早稲田大学へ進学、日本代表、リコーへ就職というものでした。しかし、高校へ進学した際に当然あると思っていたラグビー部がなく、幼い少年の夢は青い春に、空の彼方へと彷徨って行ったのでした。

高校時代は特にいろいろな経験をした時代でした。将来、本職となる、いや、副職となるDJもこの時代に通いまくったDISCOに入り浸ったのが原因です。60年代～80年代の音楽、特に、私は80年代SOUL、R&B、FUNKにのめり込みました。同時にバンドを作ってエレキギターを弾いたり、イベ

ント企画をしたり、服屋さんでバイトしたりといろいろなものに触れて生活しておりました。ちょっとだけヤンチャな高校生時代を過ごし、医学部へ進学。数回、医学部を辞めて別な職業、特に好きだった企画の仕事や服飾関係の仕事をやろうと真剣に悩んだ時期もありましたが、無事(?)卒業、医師として働き始めました。ほとんどの仲間が外科系へ進み、私も当然、外科系へ進むと思われていたのですが、実は時間をかけて一つの問題をじっくりと考えるのが好きで、手を動かすより頭を働かせる方が好きだったので、内科へ進みました。研修している間に内科の中でも血液、特に悪性腫瘍の診断、治療にのめり込み、すっかりと医師という職業が好きになり、しばらくの間、サッカーともDJとも離れた世界で生活していました。開業して落ち着いた頃から、また、サッカーとDJを再開し、現在に至るわけであります。

最近、函館はもちろんのこと、札幌、東京、名古屋、大阪でも年に数回DJをやらせていただいております。さすがにこの歳になるとDJの世界でもベテランの領域にジャンル分けされ、地方に行くと大体誰か知り合いのDJやアーティスト、オーガナイザー、クラブ経営者等がいて、飲みたくもないお酒を振る舞われる羽目になる訳であります。あ、ここで大切なこと！！ 私、お酒好きに見られますが、実はお酒嫌い、普段は全く飲まないのです。お間違いない。

と、雑談のように私のどうでもいい「Yesterday, Today」を綴ってまいりました。実は、私の大好きなソウルシンガー「マービンゲイ」がモータウンレコード25周年記念イベントで歌った曲「What's going on」、この曲が私の一番好きな曲であります。このライブバージョンが素晴らしいものであり、今でも目を瞑ると光景とセリフが蘇ります。そのイベントのタイトルが「Yesterday, Today and Tomorrow」というものでありました。ピアノの弾き語り、彼の「Yesterday, today」を語り「What's going on」のイントロが始まるという、私には痺れる光景でありました。彼のように「Tomorrow」の代わりに「どうしたんだい？」と歌うことはできませんが、大好きな曲を私の「Tomorrow」として、最後に1曲紹介して雑談を終わらせたいと思います。超マイナーバンドの名曲です。

長文のお付き合いありがとうございました。

「Sing a happy song」by EON